

東北大学・ワシントン大学 Academic Open Space 特別講演会を開催しました (2023/3/22)

テーマ：Academic Open Space に基づく医学系研究科とワシントン大学の学術交流
会場：医学教育推進センター、保健学専攻、災害科学国際研究所、星陵オーデトリウム、
東北大学病院医療安全推進室、スキルズラボ SIMSTAR（仙台市）

2023年3月22日、23日に、ワシントン大学と東北大学の Academic Open Space (AOS) に基づき、ワシントン大学麻酔科の南立宏一郎教授が来仙され、東北大学医学系研究科の医学教育推進センター・保健学専攻、災害科学国際研究所、東北大学病院医療安全推進室、東北大学医学系研究科クリニカル・スキルズラボ (SIMSTAR) を訪問、東北大学病院および星陵オーデトリウムにおいて特別講演会を行いました。

AOS は 2017 年に締結され、第 2 期でワシントン大学の医学部、看護学部、公衆衛生学部と東北大学の医学系研究科（医学専攻、看護学専攻、公衆衛生学専攻を含む）との交流を進めるために、南立教授の来仙が実現しました。

医学教育推進センターでは、日本の医学教育におけるアウトカム基盤型カリキュラムへの改革と日米の医師養成・社会背景の違いも理解したうえで、互いの長所短所を理解し、医学生、大学院生、若手研究者、さらに指導者の学術交流を促進する方針について話し合われました。

保健学専攻では、ワシントン大学看護学専攻との連携の在り方、大学院生の短期米国研修、米国における Nurse Practitioner (NP) の現状などについて話し合われました。日米の病院管理における医師と看護師の役割、NP の役割など、互いに学ぶべきことがわかりました。

当研究所では寺田賢二郎所長補佐、今村文彦所長と面談し、災害科学世界トップレベル研究拠点と AOS の今後などについて話し合われました。東日本大震災直後にワシントン大学としても支援医師派遣を検討された時期があり、救急麻酔の専門家である南立教授もリストに入りましたが、外傷治療の必要性が少なかったこと、原子力発電所事故のため派遣そのものが実現しなかったことも伝えられました。

特別講演会の第 1 弾は、大学病院の医療安全推進室と共同で、医療安全講習会として南立教授による「ワシントン州の医療安全対策～いかに医療の質を維持するか～」を開催しました。診療中の死亡はワシントン州においては、院内の General Risk Manager、ワシントン州の Medical Examiner、およびワシントン州 Medical Commission という、それぞれ独立した医療安全を管理し質を担保する機関によって調査・評価されます。南立教授は、日本とワシントン州との医療安全制度の違いを調査・研究され、また全米でも有数のレベル 1 外傷センターで緊急麻酔の中心となっている立場からさまざまな知見を共有いただき、医療体制の違いと、医療事故を犯罪とは区別する米国の社会的背景の違いを理解することの重要性が話し合われました。特別講演会は、南立教授の許可を得て医療安全講習のひとつとして関係者が閲覧できるようになります。

麻酔科では、南立教授と同じ診療科でもある山内正憲教授と面会しました。手術室運営と麻酔の安全管理、マンパワーの配置についての日米の相違を確認することができました。臨床研究の進め方と資金獲得について情報交換も行いました。また、シミュレーション麻酔科学教育と効果、日米それぞれの言語と環境での違いと共通部分に関する共同研究を構想し、今後の連携に有意義な内容になりました。

AOS 特別講演会は、山内教授の司会のもと、「重症外傷患者の術中管理～患者情報ゼロとの戦い～」と題して、星陵オーデトリウムでハイブリッド形式にて行われました。ワシントン大学ハーバービュー病院は、ワシントン州のみならずモンタナ州、アイダホ州、ワイオ
(次頁へつづく)

ミング州及びアラスカ州を合わせた日本の総面積の約7倍近いエリアをカバーする唯一のレベル1外傷センターとして、非常に多くの重症外傷を治療しています。そこで治療される患者さんたちは意識がない状態も多く、性別以外の情報がほとんどない状態で救命治療を開始しなければならない状況にしばしば直面することが紹介されました。レベル1外傷センターは24時間、365日対応することが義務付けられており、多職種がチームを形成して効率よく対処しています。その一方で、米国では担当時間がきたら業務を交代して維持することが当然です。米国では予約をしていない診療はすべて救急外来で診療されるため、救急外来の受診者数は格段に多く、日本の外来診療とは大きく異なります。社会の求める保健医療体制と、その体制に適応した救急医療のあり方が問われています。

スキルズラボ SIMSTAR では、シミュレーションを用いた医学教育について情報交換が行われました。東北大学スキルズラボは、わが国でも有数のシミュレーショントレーニングセンターです。侵襲を伴う手技の教育を患者さんにとっても、医療従事者にとっても安全に学習するためには、シミュレーションを用いた教育が必須です。スキルズラボは、高度なシミュレータを数多く所有するとともに、その維持管理・教育を行う専任のスタッフが常駐しています。また、医学教育に関するスタートアップ企業を独自に立ち上げ、カテーテル穿刺のための練習用キットを独自に開発・製造・販売していることも紹介されました。重度の外傷や高度肥満の状況でも確実に血管にアクセスすることが求められる状況が多い中で、若手の教育に有用であることから、南立教授も大変興味を示され、米国の医学教育への応用を視野に入れた共同開発への道筋も話し合われました。今後の AOS にとっても有意義なシーズになる可能性が示唆されました。

文責：江川新一（災害医療国際協力学分野）



ハイブリッド開催

特別講演

南立 宏一郎 氏

ワシントン大学麻酔科教授
 Prof. Koichiro Nandate
 Dept. of Anesthesiology, University of WASHINGTON

「重症外傷患者の術中管理～患者情報ゼロとの戦い～」

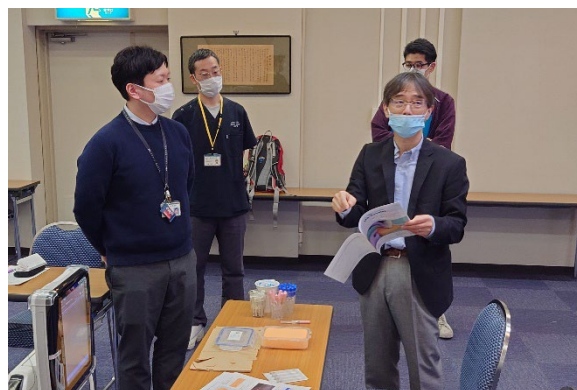
AOS 特別講演会ポスター



特別講演会の座長をされた
 山内正憲教授（麻酔科）



米国ワシントン州の外傷麻酔について
 特別講演をされる南立宏一郎教授



スキルズラボ SIMSTAR スタッフとの会合